

●川にまつわる話 ●川の歴史遺産 ●ポトムのQ&A

川にまつわる話

19

板橋 春夫

水に入るおみこし行事

夏は気温や湿度が高く、冷たいものを食べることが多くなります。また、食欲がなくなったりします。そして夏場は病気にかりやすいとされてきました。

そのために悪い病気からのがれるためのまじないが行われました。もっとも簡単な方法は、からだに付いたケガレなどを落とすために水をかけたり、水に入るとよいと考えたのです。水はただ冷たいだけでなく、ケガレを洗い流してきれいにしてくれるのです。

県内では、沼田祇園、渋川祇園など、あちこちで祇園祭の夏祭りが行われています。おはやしのリズムは少しにぎやかですが、この時期は暑苦しいくらいのリズムと熱気が必要です。熱気で逆に暑さやケガレを吹き飛ばしてしまおうというものです。夏の祇園祭は悪い病気から守るために始められたのです。

神流川ぞいの多野郡上野村と神流町には、おみこしが山にまつられた神社から川に下るユニークな行事があります。県内では主としてこの地域だけに分布する特色あるものです。山の地域だけに祀られる神社からおみこしに乗った神様が一年に一回、神流川に降りて川で水浴びをするという行事で、地元では、カワオリ・オカワサゲ・オカワサキと呼んでいます。

上野村野栗沢の野栗神社では、毎年八月一日に



近い日曜日(今年は都合により八月四日の土曜日の予定)にオカワサゲ(お川下げ)と呼ぶ祭りが行われます。おみこしは神主の家から出ますが、天狗のお面をかぶった道案内の神「猿田彦」を先頭に、神主、供え物、おみこし、小麦団子、お囃子、氏子の皆さんという順序に並んで出発します。

途中、鳥居の前で神主が大きな声で「オーツッ」と唱えますが、これは山の神様を招くための呼び声と考えられています。神流川に着くと、おみこしは川の中に設けられた御旅所と呼ばれる台のまわりを時計回りに三回まわります。

そしてまわり終わると、おみこしを河原に作った台の上に置きます。そこで神主がお祈りをして、お祈りが済むと神主は75個の小麦団子のうち半分ほど川の中に流します。これは川の神様に供え物をすると考えられています。残りはお祭りに参加した人が分けますが、この小麦団子

を食べると病気にならないと伝えられています。山の神様が川に下って水浴びをし、人々のケガレを洗い流してくれるとともに、神様自らも水に浸かって涼をとったと考えられます。夏の暑さ対策は人間だけでなく、神様も必要だったのです。

□参考文献/板橋春夫「神流川渓谷における神輿川下げの一考察」『群馬歴史民俗』13号、群馬歴史民俗研究会、1992年  
板橋春夫(いたばし・はるお)  
1954年生まれ。群馬歴史民俗研究会代表。著書に『誕生と死の民俗学』(吉川弘文館、2007年)、『民俗学講義』(共著・八千代出版、2006年)、『平成くらし歳時記』(岩田書院、2004年)などがある。

川の歴史遺産

2

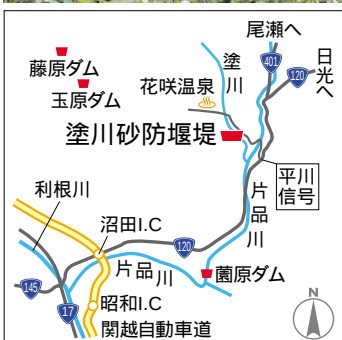
「塗川砂防堰堤」

大きな石を積み上げた幅の長い堰堤

利根沼田地方は、1947(昭和22)年から3年続けて台風に襲われ、がけ崩れや土石流などの大きな災害が起こった。その中でも片品川流域の被害がとくに大きく、流れ出た土砂が川の底にたまり、川の水が溢れて田畑に被害を与えたんだ。

そこで群馬県は、川の災害を防止するために、片品川の支流である塗川に砂防堰堤をつくることにした。工事は1951(昭和26)年から始まり、1953(昭和28)年に完成。

この堰堤の特徴は、おもな材料に大きな石を使い、それを積み上げていること、当時としては長さが飛び抜けて長い(堤長100メートル)ということ。なぜ、材料に石を



- 所在地 / 利根郡片品村大字幡谷
- 年代 / 1951(昭和26)年～1953(昭和28)年
- 構造形式 / 重力式巨石積堰堤(中埋玉石コンクリート)
- 堤長 / 100m ○堤高 / 9m
- 容積 / 3,304.07m<sup>3</sup>
- 設計・施工 / 群馬県

使ったかという、この頃はセメントなどの材料が不足しており、川底に流れ出てきた大きな石がたくさんあったので、それを利用したんだって。寒い冬の間もほとんど手作業で工事を続け、とても苦労してつくり上げたそう。最後に、釣りのスポットだそうだよ。

ポトムのQ&A

どうしても知りたいこと、あるんだけど...教えてポトムくん!

Q

砂防ダムって、ふつふのダムと何がちがうの?

A

この新聞で、子ども記者が探検に行くふつふのダムは貯水ダムともいい、水をためるためにつくられたダム。正式には、高さ15メートル以上のものを貯水ダムといい、それ以下のものを堰堤というんだ。役割は、治水、利水、発電などいろいろある。それに対して、砂防ダムは土砂をためるためにつくられたもので、水をためる機能はない。役割は、土砂をためたり、川の底の傾斜をゆるくして侵食を防いだりすることで、土石流などによる災害を防止したり、下流にある貯水ダムに土砂がたまるのを防いだりすることなんだ。

